

## 国内災害ボランティア活動報告

人文・文化学群比較文化学類 2年 駒野樹

この度、私は、台風 19 号の被災地である福島県いわき市にて 11 月 29 日(金)の 1 日間災害ボランティア活動に参加しました。以下にボランティア活動の内容や今回の活動を通じて考えたことを記しますので、これをもって活動報告とさせていただきます。

### ○活動内容 2019 年 11 月 29 日(金)

活動時間は 11:30 頃から 15:00 頃までの約 3 時間半。活動場所は好間川すぐ近くに位置する住宅。作業内容は敷地内に流入した泥土を土嚢袋に詰め、運び出すものだった。

作業を行った住宅の庭は一見するとそれほど被害が及んでないようだったが、実際は大量の泥土が流入しており、スコップで掘り始めると庭の飛石が姿を現した。広い庭一面におよそ 20 cm 以上の深さで泥土が堆積しており、それらを土嚢袋に詰め込むだけで多くの時間を費やした。加えて、庭の状態を元通りにするために地面をならす作業もあった。

庭での作業がひと段落ついた後は、畑のビニールハウス周辺に堆積した泥土の詰め込み・運搬に移った。こちらにも 20 cm ほどの深さで泥土が溜まっており、水分を若干含んでいるかなりの重量があった。しかしながら本来の地面と泥土の層がはっきりと分かれており、泥土を掘り出す作業は比較的スムーズに進んだ。時間の都合でビニールハウス内に入り込んだ泥土の運搬には着手できなかったが、ビニールハウスの周りにあった泥やゴミは一通り片づけることができて良かった。

### ○まとめ

台風 19 号に伴う災害ボランティア活動に参加するのは今回のいわき市で二回目。初めて参加した宮城県丸森町での活動は雨天の中で行われたため、一苦労だった。一方で今回のいわき市での活動は天候に恵まれ、晴天の下で作業を進めることができた。しかしながら天気が良いとはいえ、住宅に流入した泥土を運搬する作業は重労働であり、一日で作業を終えられるほど容易ではなかった。敷地内にはまだまだ泥土やゴミが堆積しており、今後も継続して作業する必要があるだろう。それに際して、被災者本人や行政だけでは不十分であり、やはりボランティアの力が大きな意味を持つ。じきに 12 月に入って気温が下がり、本格的な冬へと向かっていく。冬季間の作業はより一層厳しいものになることが予想されるため、できるだけ早期の復旧が求められる。私は今回も一日間のみの参加だったが、今後も何らかのかたちで被災地を支援していきたいと思う。

また、今回の活動では埼玉県越谷市の社会福祉協議会ボランティアの方々と一緒に作業を行った。とても優しくて明るい方々で、和気あいあいとした雰囲気の中で活動することが

できた。休憩中にはチョコレートやパンを分けてくださったり、活動後には一緒に記念撮影をしたりと、ボランティア活動を通じて温かな気持ちになることができた。このように現場で初めて出会った人々とも親密な人間関係を築くことができることも、ボランティア活動の魅力だと考える。機会があれば、学生をはじめとする多くの人々にぜひともボランティア活動に参加してもらいたい。被災地の復旧・復興に寄与できるだけでなく、自身にとって有意義な経験になると思う。

○活動の様子(写真)



写真上：庭に堆積した泥土を掘り出す作業



写真上：積み上げられた土嚢袋



写真上：浸水により住宅の外壁についた汚れ(膝上の高さまである)